

# 清陵中学校版 チーム担任制

～生徒が育つ学校を目指して～

猪名川町立清陵中学校

## ■校訓「自律・協働・創造」

「自律」とは、自分で考え、判断し、学び続ける力。

「協働」とは、違いを認め合い、力を合わせてよりよい社会をつくる力。

「創造」とは、自分の成長をもとに、未来を切り拓いていく力

学校教育目標

BE THE PLAYER

自分で考え 動く 生み出す そして未来を創る



生徒が育つ学校

やりたいことができる学校

## 清陵の学び

### 自ら学ぶ力を伸ばす学校

- ・学習者主体の授業
- ・清陵スタイルの確立
- ・個に応じた指導の充実
- ・主体的・対話的で深い学びの充実
- ・「猪名川学」、「食育」の研究推進
- ・清陵学習タイム ・清陵未来塾



地域とともにある学校

歌声が響く学校

## 清陵の育心

### 居場所のある学校

- ・学級活動の充実
- ・主体的な活動(生徒会、校則検討委員会、NKP など)
- ・地域との交流の充実
- ・福祉体験活動
- ・「あったか言葉」の励行
- ・生徒支援の充実



誰もが過ごしやすい学校

いじめを許さない学校

## 清陵の愛命

### 命と健康を大切に する学校

- ・防災・防犯訓練
- ・交通安全教室
- ・救急救命講習会
- ・講演会(いじめ予防、命の大切さを学ぶ、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、食育、など)



教育課程企画特別部会

# 論点整理

令和7年9月25日  
中央教育審議会  
教育課程企画特別部会



# 「学びに向かう力、人間性等」に係る現状と課題

## 【学習指導要領上の位置付け】

### 「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力としての位置付け

- 児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）をどのような方向で働かせていくかを決定付けるものと整理されている
- その要素は多岐にわたるが、おおむね以下のように整理できる
  - ①主体的に学習に取り組む態度、メタ認知等  
主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度 など
  - ②協働する力、持続可能な社会づくり、感性・人間性等  
多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど

#### 小学校国語

言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

#### 中学校理科

自然の事物・現象に迫って関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

#### 中学校音楽

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### 高等学校数学

数学のよさを認識し積極的に数学を適用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

## 【顕在化している課題】

### 1. 学びに向かう力等の育成は道半ば

- 左記①については、我が国の児童生徒は、
  - ✓ 自律的に学ぶ自信がある子供、
  - ✓ 自分で課題を立て探究に取り組む子供
  - ✓ うまくいか分からないことに意欲的に取り組む子供
  - ✓ 自分の考えを持つ子や夢を持つ子供
 の割合が低い ※日本企業の従業員がフューイング・ワメントが抱えているデータもある
- 左記②については、
  - ✓ 社会参画の意識は向上傾向だが、依然として他国と比べて弱い
  - ✓ 自己有用感が低い
- 変化の激しい時代において、自身の思いや願い・意志を実現し、自身の人生を主体的に能取りしていく力が求められている中、全体として「学びに向かう力、人間性等」を涵養できる学校教育の実現は道半ばといえる

こうした視点で学習指導要領等を見てみると

### 2. 育成を目指す資質・能力の具体が理解しにくい

- 「学びに向かう力、人間性等」として、多岐にわたる要素が列挙されているが、全体像が分かりにくい。近年注目されているウェルビーイングやエージェンシーとの関係も整理が必要である
- 「学びに向かう力、人間性等」に対応した学習評価の観点として「主体的に学習に取り組む態度」を設定したが、前回改訂後に提示された、当該観点の2側面である「粘り強さ」「自己調整」のみで、より大きな資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」が理解される事態が生じた
- 上記1. の我が国の児童生徒の課題を踏まえて、学校現場の実践に繋がる分かりやすい構造的な再整理を行う必要がある

顕在化している課題  
次ページイメージ図

令和7年9月25日 文科省  
教育課程企画特別部会  
「論点整理より」

# 「自ら学び、社会を創る力」を育むために ― 日本の子どもたちが直面する課題と未来への指針

## 顕在化している「学び」と「心」の課題

自律的に学ぶ自信と「挑戦する心」の不足



自律的に学ぶ自信と「挑戦する心」の不足

自分で課題を立てて挑戦したり、未知のことに意欲的に取り組む子の割合が低い傾向にあります。

他国と比較して弱い「社会参画」の意識



他国と比較して弱い「社会参画」の意識

社会の一員として貢献しようとする意識は向上傾向にあるものの、諛外国に比べると依然として低い水準です。

「自己有用感」の低さ



「自己有用感」の低さ

自分には価値がある、誰かの役に立っていると感じる心が、十分に育まれていない現状があります。

## これからの時代に求められる「生きる力」



学びに向かう力・人間性の涵養

変化の激しい時代を主体的に舵取りし、自身の願いを実現していく力が必要です。



自分の考えや夢を持ち、行動する

「正解」のない問いに対し、自らの意志で向き合い、多様な他者と協働する姿勢を重視します。

令和7年9月25日 文科省  
教育課程企画特別部会  
論点整理より

# 児童生徒の多様性を包摂する必要性（小・中）

- どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

## 小学校（35人学級）



## 中学校（40人学級）



令和7年9月25日 文科省  
教育課程企画特別部会  
「論点整理より」

※ 訪問参考資料46、47より一部データを要約して作成。 ([https://www.mext.go.jp/content/20241127-mxt\\_kyokou01-000039494\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20241127-mxt_kyokou01-000039494_3.pdf))  
 ※ 特異な才能がある子供：IQ130以上を達成しているが、多様な基礎的考え方が存在し、要領が掴みやすい場合もある。  
 ※ そのため、多様な価値観・個性の特性がある子供がおり、その対応策は問はずに広範囲にわたって考えられる。

## 中学校（40人学級）



どの学校にも多様な個性・  
特性を有する生徒が在籍  
しています

令和7年9月25日 文科省  
教育課程企画特別部会  
「論点整理より」

## 導入の背景

### 社会の変化

生徒の課題の多様化

(不登校・心のケア・発達特性)

社会課題

「激変する時代の変化に対応する

柔軟な生徒の育成・教員の欠員」

## 最上位目的

生徒の「主体性」の育成

多様な大人と関わることで、自ら目的やルールを考え、判断し、行動できる生徒主体の学校づくりを実現。

個の力量から、  
組織で支える  
学校へ

## 具体的な運用

### 全員チーム担任制とローテーション

主担任・副担任の区別を廃止。複数の教員（6～7人）で複数のクラス（3クラス）を1～2週間サイクルでローテーションし、多角的な視点を確保。

## 期待される効果

### 多角的な支援と教員の協力体制

チームでの観察による課題の早期発見。  
教員間の悩み共有による働きやすい職場づくりと、学校全体の教育力の底上げ。

# 「個の力量」から「組織で支える学校」へ

従来：固定担任制

これから：チーム担任制

視点と  
対応

一人の教員の視点に固定化。相性の問題や見落としのリスク。

複数の教員による多角的・多面的な視点。課題の早期発見と対応。

支援の  
構造

個人の努力と力量に依存。一人の教員が抱え込む。

組織全体での支援体制。教員同士が強みを活かし弱みを補完。

安全性

担当教員不在時の対応が遅れがち。

誰にでも相談でき、チーム全体で迅速に対応可能。

👉 生徒一人ひとりを確実に守り、同時に教員も守る。  
その具体策が「チーム担任制」です。

# チーム担任制の3つのねらいとメリット



## ① 自主・自律の育成

先生がすべてを決めるのではなく、生徒自身が所属するコミュニティの当事者として、学級や学年のルール作りに主体的に取り組めます。



## ② 相談相手の個別最適化

思春期の悩みは人それぞれ。「この先生になら話しやすい」と、生徒自身がその時の悩みや相性に応じて、相談する大人の相手を自ら選べる環境を作ります。



## ③ 組織的な教育力の向上

ベテランも若手も、教員同士が強みを活かし合い、チームで指導にあたります。学校全体の指導の質と生徒支援の力が飛躍的に高まります。

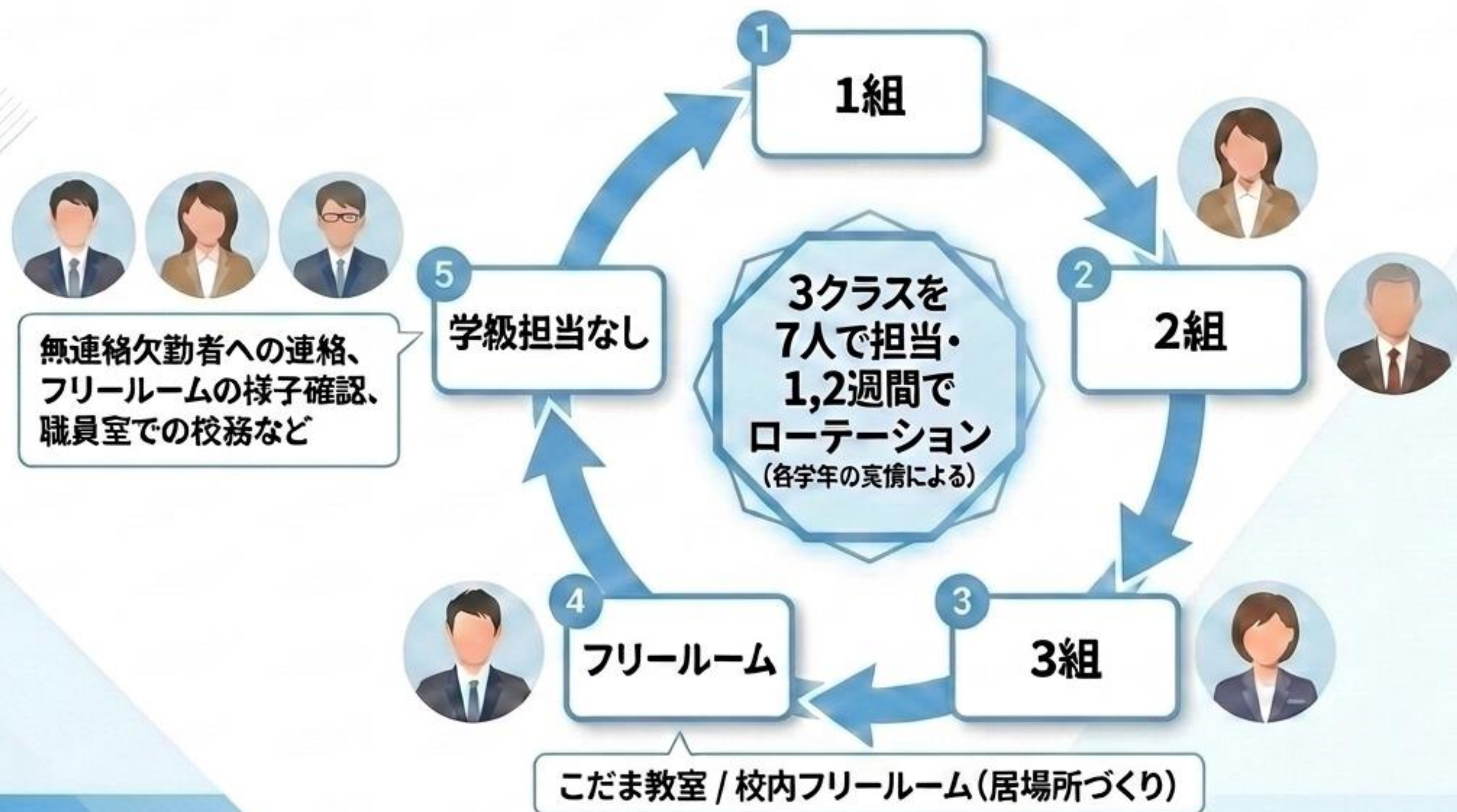
# 最上位目的：主体的に思考し、表現する集団を育む



チームで関わり、多様な視点で支えることこそが、  
生徒の「考える力」と「表現する力」を引き出す基盤となります。

# 全員チーム担任制

全員で生徒を支える体制に。



# 「あの子どもこの子ども、みんなの子」～相談相手の個別最適化～

多様な価値観を持つ大人との交流が、心を育てます



思春期を迎え、悩みや不安は人それぞれ。だからこそ、その時々で「最も相談しやすい先生」を自分で選べる環境を提供します。特定の先生に依存せず、多様な大人と関わることで「表現する力」を育てます。

# 生徒の情報を守り・つなぐ「4つの会議体」

担任が代わっても、引継ぎ漏れはありません。情報はチーム全員で共有しています。

## ケース会議（随時）

個別の配慮や支援が必要な生徒に対し、迅速かつ集中的にサポートします。

## 学校経営会議・生徒支援委員会（週1回） ・職員会議（月1回）

学校全体での多角的なサポート体制を構築します。

## 学年会議（月2回＋随時）

学年全体の状況把握と、きめ細やかな指導方針の統一を図ります。

## 職員打ち合わせ（毎朝＋放課後等）

日々の些細な変化や生徒の様子を、全スタッフで素早く共有します。



# 保護者の皆様へ (Q&A)



Q. 「担任が固定されないと、子どものことで誰に相談すればいいのかわかりません。窓口は誰になりますか？」

A. 相談窓口は「学年教員全員」です。



学年に所属している教員がローテーションで学級担任を担いますので、学年教員であれば、誰に相談していただいてもかまいません。

相談内容によって、最も適切な教員から回答します。

# 保護者の皆様へ（Q&A）



Q. 「個別懇談は、毎回違う先生と行うのでしょうか？」



A. ご希望に応じた柔軟な調整が可能です。



事前の調整により、ご希望の教員と面談可能です。

「進路のことはこの先生に」「日々の生活のことはこの先生に聞いてほしい」といったご要望には、チーム体制ならではの柔軟さでお応えします。

# 学校・家庭・地域が「ワンチーム」となって



チーム担任制は、単なる学校内の仕組みづくりではありません。先生同士が繋がり、保護者の皆様と繋がり、そして地域と繋がる。すべては、子どもたちが主体的に思考し、心豊かに育つ環境をつくるための「清陵中学校の新たな挑戦」です。皆様のご理解と、温かいご協力を心よりお願い申し上げます。

# 他市の事例

令和5年度よりモデル実施されている神戸市立雲雀丘中の事例

## 「～あの子どもこの子ども雲雀丘中の子～」

一人の担任が30～40名を抱え込むのではなく、  
一人の教員が13～16名を深く見ることで、十分な時間を確保できています。



「複数の先生に見守られているという安心感がある」

「経験の浅い教員とベテラン教員がチームを組むことで、  
指導の質が高い次元で安定している」

「教育活動の透明性が高まり、開かれた学校づくりが実現した」



ご清聴ありがとうございました